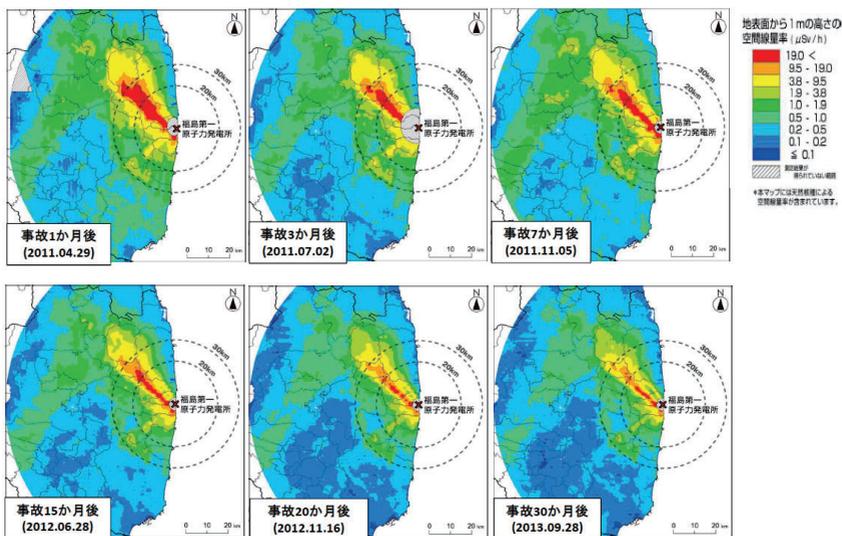


第3章

環境モニタリング

空間線量率の
時空間分布

空間線量率の推移 (80km圏内)



μSv/h : マイクロシーベルト/時

原子力規制庁発表 平成25年12月25日

3 環境モニタリング

これまで放射性物質による影響の変化を確認するため、福島第一原子力発電所から80km圏内について継続的に航空機モニタリングが実施され、空間線量率の分布状況、放射性セシウム沈着状況が調査されてきました。また、80km圏外についても航空機モニタリングにより、放射性物質の影響把握が行われています。

80km圏内における空間線量率は、線量が高い地域（福島第一原子力発電所から北西方向に伸びる領域）も、低い地域も、年月の経過とともに下がってきていることが確認されました。

本資料への収録日：2014年3月31日

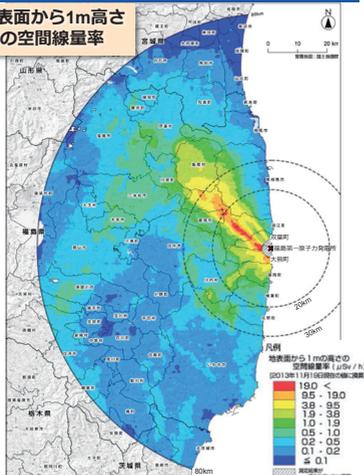
本情報は事故後1か月後（2011年）～30か月後（2013年）の情報です。

関連Q&A

- ・1章 QA25 空間放射線量率は今も福島原発事故が起こる前の数値まで下がっていないのに、事故前と同じ生活をしていいのですか
- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・3章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか

福島第一原子力発電所から80km圏内の 第7次航空機モニタリング結果 (平成25年11月19日現在の値に換算)

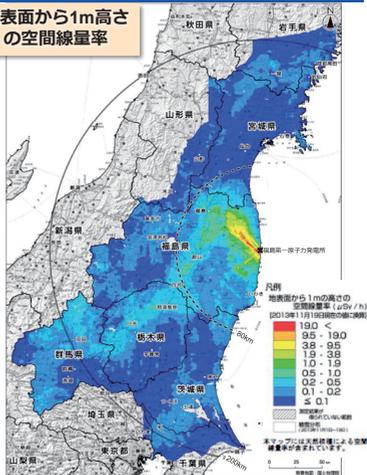
地表面から1m高さ の空間線量率



μSv/h：マイクロシーベルト時
※本マップには天然核種による空間線量率が含まれている。

福島県及びその近隣県における 航空機モニタリング結果 (平成25年11月19日現在の値に換算)

地表面から1m高さ の空間線量率



原子力規制委員会発表 平成26年3月7日

2013 (平成 25) 年 9 月から 11 月には、降雨などの自然環境による影響を含めた放射性物質の影響の変化の状況を確認するため、福島第一原子力発電所から 80km 圏内と、80km 圏外の福島県西部、茨城県、群馬県、栃木県、宮城県を中心とした地域について航空機モニタリングが実施されました。マップの作成にあたっては、航空機モニタリングを実施した最終日である 2013 (平成 25) 年 11 月 19 日現在の値に減衰補正されています。

本資料への収録日：2013 年 3 月 31 日
改訂日：2014 年 3 月 31 日

本情報は 2013 年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連 Q&A

- ・ 1 章 QA25 空間放射線量率は今も福島原発事故が起こる前の数値まで下がっていないのに、事故前と同じ生活をしていいのですか
- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・ 3 章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか



2011年3月11日、12日は
データなし



μSv/h : マイクロシーベルト/時

福島県原子力災害情報より作成

福島第一原子力発電所の原子炉からの放射性物質の大気中への放出は、主に爆発のあった2011（平成23）年3月12日から15日にかけて起こりました。大気中に放出された放射性物質は、風に乗って南西や北西の方角へと広まり、福島第一原子力発電所から60km離れた福島市でも高い空間線量率が計測されました。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

本情報は事故当日（2011年）～2014年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 1章 QA25 空間放射線量率は今も福島原発事故が起こる前の数値まで下がっていないのに、事故前と同じ生活をしていいのですか
- ・ 3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3章 QA17 モニタリングポストの測定値と、実際に線量計で測定した値が異なるのはなぜですか
- ・ 3章 QA18 空間線量率のグラフを見ると、突然、空間線量率が一時的に高くなることがあります。どうしてですか
- ・ 3章 QA19 天候に変化が無いのに、空間線量率が一時的に高くなるのはなぜですか
- ・ 3章 QA20 放射能事故等の測定データへの影響は、空間線量率の変化にどのように表れるのですか

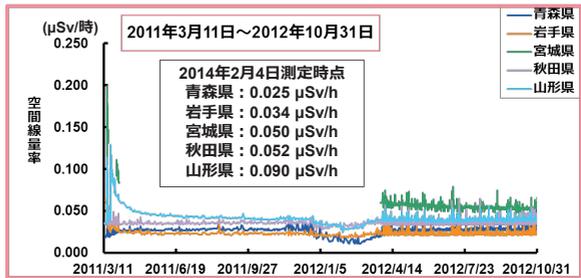
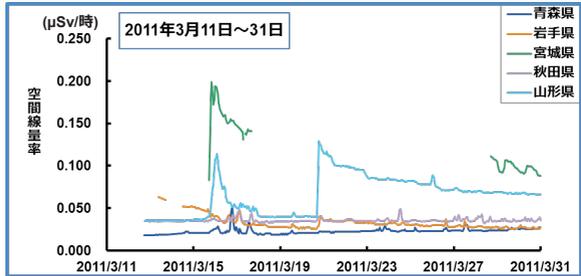
空間線量率の
時空間分布

東北地方における空間線量率の経時変化



仙台市は震災の影響で長期間データが存在しない

$\mu\text{Sv/h}$: マイクロシーベルト/時



文部科学省環境放射能水準調査結果、環境放射線データベース*より作成 ※ : 現在は原子力規制委員会が担当

東北地方の各県のモニタリングポストの所在地は、福島第一原子力発電所から近い順に、仙台市 (95km)、山形市 (110km)、盛岡市 (250km)、秋田市 (270km)、青森市 (380km) です。

各地点の空間線量率の推移をみると、東北地方には2011 (平成 23) 年 3 月 15 日から 22 日の 1 週間の間に放射性物質が移動してきたものと考えられます。その後、空間線量率が事故前のレベルに下がらなくなった理由としては、降雨などにより、地上に放射性物質が降下し、沈着したことが考えられます。

なお空間線量率のデータは、2011 (平成 23) 年 4 月から 2012 (平成 24) 年 3 月は環境放射線データベースのデータを、2011 (平成 23) 年 3 月と 2012 (平成 24) 年 4 月以降は環境放射能水準調査結果を用いています。

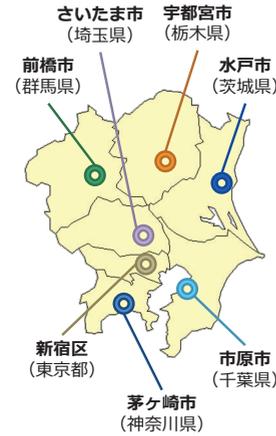
本資料への収録日 : 2013 年 3 月 31 日

改訂日 : 2014 年 3 月 31 日

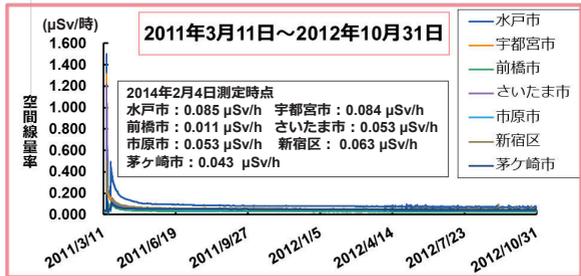
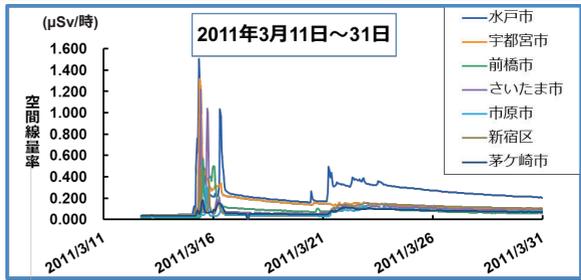
本情報は事故当日 (2011 年) ~ 2014 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウェザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA17 モニタリングポストの測定値と、実際に線量計で測定した値が異なるのはなぜですか
- ・ 3 章 QA18 空間線量率のグラフを見ると、突然、空間線量率が一時的に高くなることがあります。どうしてですか
- ・ 3 章 QA19 天候に変化が無いのに、空間線量率が一時的に高くなるのはなぜですか
- ・ 3 章 QA20 放射能事故等の測定データへの影響は、空間線量率の変化にどのように表れるのですか



μSv/h : マイクロシーベルト/時



文部科学省環境放射能水準調査結果、環境放射線データベース*より作成 ※ : 現在は原子力規制委員会が担当

関東地方の都県のモニタリングポストの所在地は、福島第一原子力発電所から近い順に、水戸市 (130km)、宇都宮市 (140km)、前橋市 (210km)、さいたま市 (210km)、新宿区 (230km)、市原市 (230km)、茅ヶ崎市 (270km) となっています。各地点の空間線量率の推移をみると、関東地方には2011 (平成 23) 年 3 月 15 日から 22 日の 1 週間間に放射性物質が移動してきたものと考えられます。その後、空間線量率が事故前のレベルに下がらなくなった理由としては、地上に放射性物質が降下し、沈着したことが考えられます。

なお空間線量率のデータは、2011 (平成 23) 年 4 月から 2012 (平成 24) 年 3 月は環境放射線データベースのデータを、2011 (平成 23) 年 3 月と 2012 (平成 24) 年 4 月以降は環境放射能水準調査結果を用いています。

本資料への収録日 : 2013 年 3 月 31 日

改訂日 : 2014 年 3 月 31 日

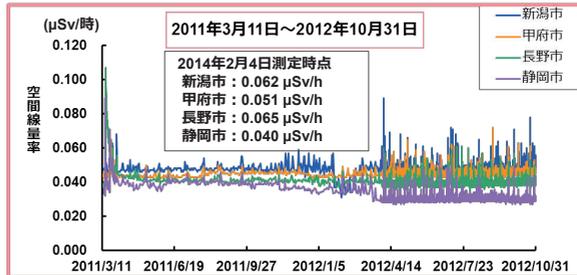
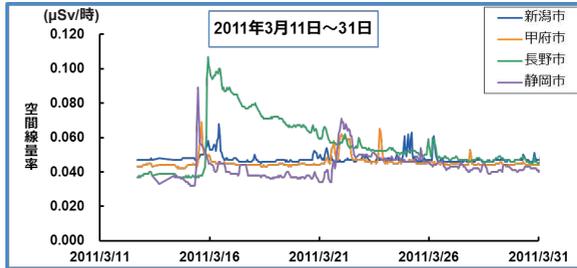
本情報は事故当日 (2011 年) ~ 2014 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウェザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA17 モニタリングポストの測定値と、実際に線量計で測定した値が異なるのはなぜですか
- ・ 3 章 QA18 空間線量率のグラフを見ると、突然、空間線量率が一時的に高くなることがあります。どうしてですか
- ・ 3 章 QA19 天候に変化が無いのに、空間線量率が一時的に高くなるのはなぜですか
- ・ 3 章 QA20 放射能事故等の測定データへの影響は、空間線量率の変化にどのように表れるのですか



μSv/h : マイクロシーベルト/時



文部科学省環境放射能水準調査結果、環境放射線データベース*より作成 ※ : 現在は原子力規制委員会が担当

中部地方の各県のモニタリングポストの所在地は、福島第一原子力発電所から近い順に、新潟市 (180km)、長野市 (270km)、甲府市 (300km)、静岡市 (360km) となっています。事故当初からの空間線量率をみると、高いところで0.1 マイクロシーベルト / 時間程度になっています。

なお空間線量率のデータは、2011 (平成 23) 年 4 月から 2012 (平成 24) 年 3 月は環境放射線データベースのデータを、2011 (平成 23) 年 3 月と 2012 (平成 24) 年 4 月以降は環境放射能水準調査結果を用いています。

本資料への収録日 : 2013 年 3 月 31 日

改訂日 : 2014 年 3 月 31 日

本情報は事故当日 (2011 年) ~ 2014 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウェザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA17 モニタリングポストの測定値と、実際に線量計で測定した値が異なるのはなぜですか
- ・ 3 章 QA18 空間線量率のグラフを見ると、突然、空間線量率が一時的に高くなることがあります。どうしてですか
- ・ 3 章 QA19 天候に変化が無いのに、空間線量率が一時的に高くなるのはなぜですか
- ・ 3 章 QA20 放射能事故等の測定データへの影響は、空間線量率の変化にどのように表れるのですか